

2020年3月期 3Q 決算説明会（電話会議）の主な質疑応答

Q：AM 分野の構造改革について、この 3Q でやるべきことは全てやったということか？ または今回明らかにした以外のこともこれから期末にかけてする予定があるのか？

A：今回の構造改革の実行は、昨年 12 月くらいから開始し今期中には完了すると考えているが、費用は 3Q に全て含めている。これら以外にも 4Q のタイミングで考えているものがあり、通期業績予想には反映している。

Q：年間の営業利益は想定線で推移しているという話だったが、今回の構造改革も含めての話か？

A：構造改革も含めて営業利益は想定線だった。ただ、AM 分野については用品等が車両の販売減の影響もあって 3Q は想定に届かなかったこともあり、できればもう少し貯金を持って 4Q を迎えたかった。

Q：来期に向けた AM 分野 OEM の受注動向について、受注が取れているものがある一方で、今期純正では終息しているものもあると思うが、来期受注が減っていくリスクについてはどうか？

A：純正については今期の期初からご説明している通り、今期中にはほぼ終息していく見込みなので来期は確実に減る。また、我々が想定していた以上のデバイス事業の縮小によりここも来期にかけて減っていく見込みである。

Q：来期にかけて AM 分野のデバイスの減少の話があったが、その他に海外のアフターマーケットの市場が欧州中心に縮小してきている。ここはどのようにテコ入れをしていくのか？ 新商品も投入することだが、それで良くなっていくのか？

A：海外のアフターマーケットは、日本と異なりまだまだオーディオが中心であったが、このオーディオ市場が縮小し、「Android Auto」や「Car Play」を搭載したディスプレイオーディオといったマルチメディア系の市場に移行しつつある。今後もオーディオ市場の縮小はさらに続く想定し、オーディオについては構造改革によって固定費を圧縮する一方で、マルチメディア関係については、オーディオからの開発シフトなども行って売上を増やしていく予定。これらの施策により来期についてはアフターマーケット全体で、今期比で若干のプラスくらいを見込めるものと考えている。

Q：その他の DX ビジネスについて、今後の売上収益拡大幅をどれくらいで見ていけば良いか？ また、ソリューション系が今後増えていく中で、マージンはどのように改善していくのか？

A：今期は 100 億円規模の売上を見込んでいるが、来期については順調にいけば 2～3 割くらいの増収を見込んでいる。利益率については、来期急激に変化するということは考えていない。

Q：固定費としては、AM 分野から異動になる人もいるし、新しい事業の立ち上げ費用なども想定していた方がよいということか？

A：AM 分野からの異動分は固定費が増えることになるので、売上が増えた分そのまま利益が増えるということにはならない。

Q：DX ビジネスの Grab 社とのビジネスの進捗状況はどうなっている？

A：Grab 社とのビジネスは、通信型ドライブレコーダーの納入と毎月の使用料の徴収だが、現時点で 8,000～9,000 台くらいまで契約が進んでいる状況。

Q：損益分岐点的にはどれくらいの契約台数と考えれば良いか？

A：過去にかかった経費を除けば現時点の契約数でも毎月プラスになってきている。3 万台近くになれば過去の経費も含めて黒字になると考えている。

Q：リスク要因として、新型コロナウイルスによる肺炎の影響があげられていたが、具体的には販売面、生産面でどういった影響が想定されるのか？

A：中国内の生産拠点は上海や中国本土の南部が中心で、現時点では直接当社の工場の生産に大きな影響が出

ることは考えていない。ただし、使用している部品の中に中国製のものが多く、この部品の調達次第では中国に限らず世界中の工場で影響が出ることが懸念される。一方販売面への影響は、現時点では想定できていない。

Q：今期の営業利益の推移について、4Qは前期比で増益になる計画だと思うが、この変化の要因は？またAM分野は前期に一過性の費用が発生したと思うが、今期の回復の規模感は？

A：前期の4QはAM分野が4億円の赤字だった。サプライヤーの供給問題などの要因があったが、今期は解消されることから、AM分野では前期比で10～15億円程度の改善を見込んでいる。PS分野についてもカリフォルニア・ハイウェイ・パトロールなど、新規案件もあるのでこちらも対前年での改善を見込んでおり、今期4Qでは増益が達成できると考えている。

Q：今期の利益進捗が計画並みだとすると、来期は新中計や中国の新型コロナウイルスによる肺炎の影響などに鑑みて計画を作ると考えれば良いか？他にプラス要因、マイナス要因があるか？

A：来期は「2020年ビジョン」の最終年度にあたるが、今のところ予定通りの進捗と考えている。分野によって、プラスのところマイナスのところはあるが、全体では予定通り遂行できると考えている。新型コロナウイルスによる肺炎の影響は予想しづらい部分があるので、これから3月にかけて注視したいと考えているが、そういった外部要因を除けば、「2020年ビジョン」の目標達成に向かって、オントラックで進んでいると考えている。

以上